



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

今年度から、Web サイト湘北 SDGs を開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Web サイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。



Web サイト湘北 SDGs ↑
最新のニュースは「取り組み」から、第1号から第7号は「ニュースレター」にてご覧いただけます。

～動画で学ぶ SDGs～



INSTOCK
一流シェフが腕をふるう
「廃棄食品レストラン」(オランダ)

規格外だから、形がよくないから、という理由で廃棄されていたスーパーマーケットの食材を使って、一流シェフがおいしいランチを作るオランダのレストラン INSTOCK の紹介です。(Earthackers, Akihiro Yasui)

湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2023 年度 第 2 号

(通算第 8 号)

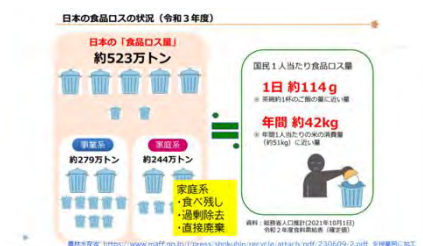
今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学 生活プロデュース学科

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】食品ロスとその削減について (2023 年 6 月)



「ライフスタイルマネジメントの基礎」(生活プロデュース学科 1 年 必修科目)の中で「食品ロス」とその削減について取り上げました。

わが国の食品ロス量は、削減の取り組みが進み【2000 年 980 万トン⇒2021 年 523 万トン】と、減ってきています。

しかし「もったいない」だけではない様々な社会問題との関連から、いま食品ロスを通じて学ぶべきことは多くあります。

賞味期限と消費期限の違い、日本人の過度な鮮度志向、3 分の 1 ルールと呼ばれる商慣習など、食品ロスに関わる身近な要因を扱うとともに、わが国の食料自給率の低さと併せてどう考えるか、食品ロス削減の達成 (SDGs のターゲット 12.3) は、環境問題など他のターゲットの達成に関わることに触れました。



学生のコメントを紹介します。

「事業系 (食品ロス) では、自分で量が調整できないので食べ残しが多い。お惣菜だと人それぞれ食べるものも違うし、人気、不人気もあるので売れ残ってしまう。」「たまごの賞味期限は『生で食べる時』の期限、ということを知りました。」「食品ロスを減らすためにこれから社会を担っていく私たちがしっかり考えていかなければならない問題だと感じました。」

授業を機会に視野を広げ、常に興味を持ち続けて行って欲しいと思います。(生活プロデュース学科 吉川光子)

【委員会活動】「相模川クリーンキャンペーン」に参加

(2023 年 5 月 28 日)



2023 年 5 月 28 日早朝に開催された「県央相模川サミット六市町村合同クリーンキャンペーン」に、本学福祉委員会の学生有志 3 名と職員親子が参加しました。広い河川敷に立つと、目立った大きなゴミはないのですが、海や川の生態系に影響をもたらすマイクロプラスチックやガラスなどの小さなゴミをたくさん拾うことができました。また、終了後には、参加者全員で鮎の稚魚を放流し、自然保護を実感することができました。「はじめてクリーンキャンペーンに参加したけどおもしろかった。」「よく見ると、ガラスやプラスチックの細かいゴミが見つかった。」「新鮮だった。鮎の稚魚の放流ができて楽しかった。」と学生の感想が寄せられました。



(福祉委員会)

【授業紹介】 サステナブルファッションについて学びました （2023 年 6 月）



「ライフスタイルマネジメントの基礎」（生活プロデュース学科 1 年 必修科目）において、「サステナブルファッション」をテーマとして授業を実施しました。

繊維が糸となり、糸が布となり、布から服が作られる、衣服の生産の工程と、衣服が作られてから廃棄されるまでの「服の一生」を通してファッション産業の特徴とその過程で生じる環境負荷や人権問題について学び、未来のことを見据えたファッションのあり方である「サステナブルファッション」について考えました。

学生たちの意見や感想を紹介します。

「フードはどこ産なのかよく見ていたが、洋服は見たことがなかった。また、ファッション産業が環境汚染にとっても関係していることを知ってびっくりした。」

「安いからかわいいからではなく、どのように製作されているかを考えて購入すべきだと考え直すことができた。」

「本当に必要かどうか慎重に考えてから購入するようにしようと思った。」

「服を捨てる場合もリサイクルボックスに持っていったり、分別をして資源ごみに出して、これから自分や子孫が生きる環境をできる限り綺麗に持続できるよう、自分にできることからやってみようと思った。」

「薄手のものは少し切って部屋を掃除する時に雑巾代わりなどにして再利用することを意識したい。」

「バングラデシュで起こった事故を知り、軽い気持ちで服を購入することは失礼だと感じた。また、服が環境に与えている負荷の大きさを学び、人ごとだと思わずに自分ごととして考え、着回しができるかや、長く使える洗濯方法などを知り服やファッションと付き合っていきたい。」

「服を選ぶのも着るのも好きなので、買うことに対して「制限しないと」と考えるのではなく、購入した後にその衣服はどう向き合うかを考えていきたいと感じた。使わなくなった＝捨てるという概念を捨てて、長くかつ、アイデアを加えながら幅広くファッションを使いこなせる人でありたいと考えた。」

ファッションをめぐる様々な社会的な課題を「自分ごと」としてとらえ、生活者としての自分たちには何ができるのかについて考える機会となりました。（生活プロデュース学科 奥脇菜那子）



【大学の取り組み】 マイボトルやマイカップによる「コーヒー割引サービス」を開始 （2023 年 5 月）

2023 年 4 月より、コロナ禍により長らく縮小営業としていたキャンパスレストランのカフェコーナーを 3 年ぶりに再開し、連日、学生や教職員で賑わっています。

カフェコーナーの再開に合わせて、運営会社の協力のもと、マイボトルやマイカップを持参すると、「コーヒー（120 円／1 杯）を 10 円割引」とする新サービスを開始しました。

「マイボトル」・「マイカップ」とは、自分用の飲み物を入れて携帯する水筒やタンブラー、コップのこと。職場や学校、外出先にマイボトルやマイカップを持参することで、一度きりで捨てられてしまう紙コップやプラスチック蓋、ペットボトルなどの使い捨て容器を削減でき、環境の負荷を減らすことができます。



本学では、引き続き環境への負荷低減を目的に、SDGs の推進活動を通じて、「持続可能な開発目標」に取り組んでまいります。（総務部）